

別記
第1号様式(第14条関係)

環境マネジメントシステム導入報告書

| | |
|--|---|
| (宛 先) 京 都 府 知 事 | 令和2年 7月 20日 |
| 住所(法人にあっては、主たる事務所の所在地) 京都府乙訓郡大山崎町大山崎小泉1番地 | 氏名(法人にあっては、名称及び代表者の氏名) マクセル株式会社 代表取締役 取締役社長 中村 啓次 |

| | |
|--|--|
| 環 境 マ ネ ジ メ ン ト シ ス テ ム の 名 称 | ISO14001 |
| 適 用 範 囲 | マクセル(株) 京都事業所ほか7箇所 |
| 導 入 年 月 日 | 1997年 12月 24日 |
| 認 証 番 号 | EC97J1148 |
| 基 本 方 針 | 基本理念:「環境との調和」を経営の最優先課題の一つとして行動します。 基本方針:「恵み豊かな地球を次世代へ」のスローガンを掲げ、(1)環境管理システムと環境活動の継続的改善を図ります。(2)環境汚染の予防に努め、環境改善に取り組みます。(3)重点項目として次の継続的改善活動を推進します。 ①環境マインド&グローバル環境経営など4つの事項。 |
| 環境に配慮した事業活動を自主的に進めていくための目標(以下「目標」という。) | エネルギー起源のCO2排出量を削減する・・・1990年度比 2020年度計画65%以上削減 廃棄物等発生量を削減する・・・2005年度比 2020年度計画42%以上削減 |
| 目標を達成するための取組の内容 | 【CO2排出量の削減】 変圧器更新により電力損失削減、冷凍機更新、空調機更新により電力削減、屋根の断熱塗装により空調電力削減、及び機器の適正な運転管理。 【廃棄物等の排出量削減】 仕損・ムダの低減による歩留まり向上、分別による再資源化の徹底 |
| 目標を達成するための取組の進捗状況 | 【CO2排出量の削減】 現状にあった変圧器の設備容量と台数に変電所毎で計画的に更新中。 PAC空調をエリア毎で計画的に更新中。各機器の台数制御運転により、適性なエネルギー供給実施継続中。 【廃棄物等の排出量削減】 仕損・ムダの低減による歩留まり向上、分別による再資源化を実施中 |
| 目標を達成するための取組の成果及び当該成果に対する評価 | 当初計画どおりに取り組むことができている。 |
| 事業活動に係る法令の遵守の状況 | 遵守状況は1ヶ月に1回確認を行っており、これまで違反及び行政当局からの指摘はなかった。 |
| 環境マネジメントシステムの評価及び見直しの内容 | 評価・見直しの必要性については、1年に1回マネジメントレビューを実施している。 令和元年度の目標は概ね達成し成果が見られたことから、令和2年度も同一のシステムにより運用開始した。 |

注 認証番号の欄は、導入した環境マネジメントシステムについて第三者の認証を受けている場合にのみ記入してください。